

# 会 議 録

承 認		
白木 委員長	西岡 委員	須藤 委員
2/9 了承	2/10 了承	2/15 了承
<p>《会議名称》平成 28 年度 岸和田市公共事業評価委員会                      《開催日時》平成 29 年 1 月 19 日(木)14：00～15：30                      《開催場所》岸和田市役所別館 上下水道局 2 階会議室</p>		
<p>《出席者》                      委員：白木江都子委員（委員長）、西岡數房委員（副委員長）、須藤寿子委員                      信貴市長                      事務局：幹 事：板東上下水道局長、畠下水道整備課長、長谷川下水道施設課長                      書 記：下水道整備課 越智、魚野、尾垣、川端                      オブザーバー：下水道施設課 上田                      日本水工設計(株) 山元、川崎、清水</p>		
《傍聴者》 1 名		
<p>《概 要》                      ■委嘱状の交付                      ■役員互選                      ■諮問事項                      1. 合流式下水道緊急改善事業の事後評価について</p>		
<p>《内 容》                      ■委嘱状の交付                      ＊市長より各委員に委嘱状交付。                      ■役員互選                      ＊委員長には白木委員、副委員長には西岡委員を選任。                      ■書記指名                      ＊平成 28 年度第 1 回公共事業評価委員会の書記として、須藤委員と西岡委員を指名。                      ■諮問事項                      1. 合流式下水道緊急改善事業の事後評価について                      岸和田市合流式下水道緊急改善事業の事後評価（案）を事務局より説明。                      【質疑の概要】                      （委 員） ＊雨天時に水質調査を実施し、公共用水域への放流水質基準の数値が下回っていたという報告趣旨でよろしいか。                      （事務局） ＊計画当初モニタリング調査を実施し公共用水域への放流水の汚濁負荷量を削減する為、岸和田市に最適な事業メニュー案を作成した。                      ＊当該事業メニューを実施したと仮定しどの程度汚濁負荷量を削減できるかというシミュレーションを行い、目標達成可能な事業メニューを実施した。                      ＊しかし解析だけでは実際に改善されているのかを確認するのは困難である為、雨天時に代表的な地点で採水を行い、水質基準を下回っているかを確認した。</p>		

- (委員長) \*当初の国土交通省の合流式下水道緊急改善事業の実施基準では事業達成が困難であったとの説明であったが、当初膨大な事業費用を要すると考えられていた当該事業も、計画見直しにより実施可能な事業費に岸和田市においても抑制されたということか。
- \*また結果として水質の基準値も満たしているということか。
- \*天の川下水ポンプ場と下野町下水ポンプ場はもともと存在しているが、下野町下水ポンプ場敷地内に新たに滞水池を設置することにより、雨天時に大量の未処理放流水が川や海に流れ込むことを防ぐことができるようになったということか。
- (事務局) \*当初の合流式下水道緊急改善事業の実施基準では、現状の改善状況を考慮せず、全ての自治体において現状は未改善状態とされ、現状ある程度改善されている自治体においては大変厳しい基準となっていた。よって多くの自治体で事業の進捗が芳しくなかった。
- \*こうした現状を受けて、国土交通省は平成20年3月に新たな指針を示し、各自治体はその特性に合わせた計画を策定し、費用対効果を十分に発揮できる事業メニューで実施可能となった。
- \*もう一点は、当初の実施基準では全ての降雨についての未処理放流回数半減が求められていたが、比較的強い降雨においては、未処理放流水は十分に希釈され、公共用水域に与える影響が低いと判断される降雨もあり、新たな指針では、このような降雨に関しての対策は不要とされた。つまり、公共用水域に与える影響が大きいと判断される降雨のみの対策が求められる指針となった。
- \*これにより、水質の基準値を満たすための事業費の削減、事業の完了時期の短縮が可能となった。
- \*全国における事後評価公表のスケジュールにも各自治体が間に合ってきたという次第である。
- (委員長) \*4ページ目(パワーポイント7枚目)に「効率的な合流式下水道緊急改善計画策定の手引き(案)の発刊」というタイトルがあるが、これが今説明された内容か。この箇所において、分かりにくい点があるのだが、例えばゲリラ豪雨のような大雨においてはケースとして省かれるという認識で正しいか。
- (事務局) \*省かれる。ゲリラ豪雨や洪水が起きるような大雨の場合には、浸水対策といった別の側面からの対策を採っていく必要がある。
- (委員) \*スクリーンの清掃は、どのようになされているのか。
- (事務局) \*沼町と下野町のスクリーンには、新技術が採用されている。スクリーンにゴミがひっかかると、下部にスクリュウがあり、水流によりゴミを巻き込み、処理場の方へ誘導する仕組みとなっている。このことから、頻りにスクリーンの清掃を行う手間は省ける。
- (委員) \*未処理放流回数が141回とあるが、具体的にどのくらいの雨量、ないしは流入になれば放流しているのか。
- \*想定としては、どれくらいの雨量なのか。
- (事務局) \*現在は天の川ポンプ場を経由して、磯ノ上処理場に雨水が流入している。天の川ポンプ場から磯ノ上処理場に送水される雨水量は、磯ノ上処理場において十分処理が可能な量を送水している。しかし、大雨などにより送水量が増し、処理できなくなった雨水については、直接公共用水域へ放流されている。
- \*雨水量と雨の強さが比例しないので一概には言えないが、磯ノ上処理場では、降雨強度が1時間当たり約20mm程度で、未処理放流していることが多い。流入量が1分当たり約55m<sup>3</sup>程度までは、水処理を行っており、それ以上になると未処理放流しています。

- (委員) \*昨今、ゲリラ豪雨で1時間に10~20mm降ることが頻繁にある。1時間当たり20mmという数字だけ見たとき、あまり問題のないように見える。しかし、このような場合においても放流は必要なのか。
- (事務局) \*岸和田市の雨水計画においては、1時間当たり51.7mmに対応できる計画となっており浸水対応としては問題ない。しかし、水処理能力には影響し、未処理放流が発生する。今回、下野町下水ポンプ場に新たに建設した滞水池は2,600 m<sup>3</sup>を貯水できる。もちろん放流をする場合は、この滞水池に雨水が完全に溜まってからである。滞水池に汚い水を残したまま放流されるので、初期雨水より水質が良好な雨水が海に放流される。
- (委員) \*水質の基準値が前回よりも改善されているという点では、評価されるべきなのではないか。
- \*今後も水質の改善は、継続して行っていくのか。
- (事務局) \*水質調査は毎年定期的に継続して行われている。
- (委員) \*次の事後評価の予定はあるのか。
- (事務局) \*合流式下水道緊急改善事業としては、これが最後である。10年間の事業計画として、これで完了となる。新たな合流式下水道緊急改善事業計画は、現在のところ予定はない。但し、社会情勢の変化に伴い、新たに法改正等により、更に水質改善が求められる際は、国土交通省から新たな指導が示されることも考えられる。
- (委員長) \*この前の台風の影響で、自然資料館近辺の住宅において浸水被害があった。浸水であれば、下水道整備課とは別の所管になるのか。
- (事務局) \*内水氾濫など一定以上の雨量により下水では処理しきれなくなった雨水が、街の低地に流れ一時的に浸水することがある。当然、公共下水道にも雨水処理を適切に行うという役割があるので、当課も被害に伴う対応は求められる。浸水に関しては、合流式下水道緊急改善事業としてではなく浸水対策という観点で、今後も対策を講じていかなければならない。全国的にもこのような傾向になりつつある。
- (委員長) \*これまでの話を通して、当該事業の結果、大雨による衛生面やBOD汚濁負荷の環境悪化の問題は解決されているようだ。大きなゴミなどもスクリーンで取り除かれる。
- \*雨水量が多いときであっても家庭などから発生する汚水に関して対策を講じていれば、浸水被害は免れない場合もあるが、未処理放流水の水質改善という当該事業の目的は達成されている。
- (事務局) \*自然災害など降雨量が多い場合だと、大量の水が公共用水域に排水されるので、BOD濃度は極めて微小となり、未処理放流水の水質は問題ないと考える。当該事業で対応できる範囲内である。
- (委員長) \*ポンプ場にある滞水池や以前聞いた府道大阪臨海線に埋設される大きな下水道管の二つは、一度に多量の水が流れ込んだ場合には効果的に働いているのか。
- (事務局) \*下野町ポンプ場に当該事業で設置された滞水池は、一時的に多量の雨が降ったときに、ファーストフラッシュと言われる汚濁負荷の最も高い汚濁水を一時的にストックして晴天時に徐々に処理場へ汚濁水を送り処理を行う。もう一つは、貯留管と言われるもので、当初の事業計画には記載されていたが、費用対効果を考えた新たな指針により緩和され、貯留管の整備に関しては最終計画には記載がなくなった。
- \*貯留管はなくなったが他の事業メニューで目的は達成されている。
- (委員長) \*大雨が降って滞水池に溜めておく、そして雨がおさまった時にまた流すという一連の流れの指示に関してだが、職員はどのようにコントロールしているのか。

(事務局) \*滞水池に溜め込んだ雨水を晴天時に処理場に送り、処理されて海に放流されるという流れになるので、最初に溜めた 2,600 m<sup>3</sup>については未処理放流水ではなく処理水として放流される。一度雨が降り滞水池が満水になったとしても、次の雨天時には空にする必要があるので、雨が止んで4時間でポンプ場に送り込むというシステムをとっている。目標は4時間と定められているが、施設課が一年間運用してきたので、それらを踏まえて検討を重ね運用方式を改良している。

(委員) \*自動制御ではなく人為的に制御しているのか。

(事務局) \*自動制御ではなく、雨量を予測して人為的に運転時期を判断している。

(委員) \*良い成果が出ているのであれば異論はない。

(委員長) \*それでは合流式下水道緊急改善事業の事後評価について、原案どおり了承してよろしいか。

(委員) \*了。

\*公表する際には、モニタリング調査時の雨量などの付帯説明を添えられたい。

(事務局) \*了。

(委員長) \*原案どおり答申することとしてよいか。

(委員) \*了。

## ■報告事項

### 1. 合流式下水道緊急改善事業の事後評価の今後の手続きについて

岸和田市合流式下水道緊急改善事業の事後評価の今後の手続きを事務局より説明。

#### 【質疑の概要】

(事務局) \*本日、答申いただいた事後評価を、今後大阪府を通じて国土交通省へ提出する。

\*その後、市ホームページ等で議事録とともに公表する予定である。

(委員) \*了。